

道軟連会報

2023年度 前期号
2023.6.30
第83号
発行所
北海道軟式野球連盟
札幌市豊平区豊平5条11丁目1番1号
発行者 奥山英明
編集者 総務部
印刷所 岩橋印刷株式会社

二〇二三年度定時評議員会の開催

新型コロナウイルス感染症対策から四年振りの対面開催

二〇二三年度定時評議員会を三月十一日（土）に、札幌市内のホテルノースシティにて四年振りに対面により開催しました。新型コロナウイルス感染症が中々収まらず、まん延



2023年北海道軟式野球連盟 定時評議員会

防止等重点措置の適用期間が延長されるなど、三年続けての支部評議員の書面による決議をお願いしたところでした。今般、感染の落着きもありマスク着用の上、久々の対面開催となりました。

議題は、各種事項の報告及び承認案件、協議事項などが評議員全員の賛同を得て無事採択され来年度の法人化に向けての新しい年度がスタートしました。

以下は、二〇二三年度の主な各部の事業推進計画です。

【総務部】

- ①組織運営と財政運営
- ・規約、規程等の見直しの実施
- ・コンプライアンス（法令遵守）の意識向上と取り組みの強化

・健全な財政運営と推進のため次期負担金等検討に向けた「組織財政

検討委員会」への資料提供

・一般社団法人化に向けた準備

②広報活動

・広報誌の定期発刊とホームページによる大会速報等会員への情報提供

③大会運営

・北海道大会派遣役員必携、北海道大会に参加するチームの遵守すべき事項と大会運営ガイドラインの改訂版を発行

・次年度以降の大会開催地及び開催日程の調整等の実施

④アナウンス講習会への講師派遣
・スムーズな大会運営を行うための放送員の育成

・二〇二四年高松宮賜杯全国大会のアナウンス力向上に向けた講習会の実施

⑤軟式野球の普及と育成、スポーツ障害の予防対策

・育成強化部と連携しスポーツ障害の予防対策の検討と検診の実施

⑥競技者登録システム導入に向けた検討と情報収集等

【育成強化部】

①（公財）北海道スポーツ協会競技力向上事業計画に基づき強化事業

を実施

・第七十八回鹿児島国体に出場する北海道代表チームの道内外強化事業

②少年野球育成に関する事業

・成長期のスポーツ障害予防

・指導者講習会の実施

・第四十三回高円宮賜杯学童大会南北の参加チームへの肘肩障害予防検診を実施

③スポーツ指導者養成講習会の実施

・日本スポーツ協会公認コーチ養成講習会

・公認学童コーチ養成講習会

【審判部】

①審判員の資質向上と技術の普遍化を図るため各種審判講習会の開催

・北海道地区審判講習会

・支部審判講習会

・支部技術員審判部長実技研修会

・全軟連北海道ブロック審判講習会

②全軟連審判技術研修員講習会への派遣

③北海道・東北ブロック全軟連審判技術指導員研修会の開催と派遣

④国体強化合宿（道外）への審判員派遣

⑤公認審判試験の実施

二〇二三年十一月五日（日）

⑥各審判関連会議の開催

・技術委員会

・審判部役員合同会議

・支部審判部長技術員会議

・公認審判員資格審査委員会

なお、「二〇二二年度連盟功績賞受賞者」については、定時評議員会の開催前に表彰式を開催し、当連盟本間会長から表彰状と記念品が贈られました。

〈功績賞受賞者〉

・阿部哲氏（後志支部）

・黒田隆氏（西胆振支部）

・小杉博揮氏（室蘭支部）

・片倉芳春氏（苫小牧支部）

・中川甫氏（南空知支部）



阿部氏 表彰

二〇二三年度役員選考委員会の設置決まる

今般の評議員会で来年度役員改選（二〇二四～二〇二六年期）に向け「役員選考委員会」の設置が報告され、下記評議員六名の方々が指名されました。お忙しい中、大変ご苦勞

新しい各支部 役員 紹介

小樽支部 審判部長



本間浩之 氏

昭和30年
9月10日生

平成12年 小樽支部 理事

平成20年 公認一級審判員取得

平成22年 小樽支部 審判技術員

平成26年 小樽支部 評議員

令和5年 小樽支部 審判部長

小樽支部 評議員



牛腸和美 氏

昭和31年
4月27日生

平成14年 小樽支部 理事

平成22年 公認一級審判員取得

と思いますがよろしくご協力をお願いいたします。

・道南ブロック

西胆振支部 佐々木雅宣氏

・道央ブロック

小樽支部 牛腸 和美氏

・道央南ブロック

苫小牧支部 玉井 新一氏

平成26年 小樽支部 審判部長

令和5年 小樽支部 評議員

小樽支部 技術員



山下芳智 氏

昭和34年
8月20日生

平成27年 小樽支部 理事

令和2年 公認一級審判員取得

令和5年 小樽支部 審判技術員

千歳支部 理事長



千葉直樹 氏

昭和39年
6月15日生

平成17年 公認審判員二級取得

平成19年 千歳支部 理事

平成22年 公認審判員一級取得

・道北ブロック

富良野支部 鈴木 義男氏

・オホーツクブロック

網走支部 堀田 国男氏

・道東ブロック

中標津支部 野田 勝氏

（総務部）

平成26年 千歳支部 副理事長

平成29年 北海道軟式野球連盟 理事

令和4年 北海道軟式野球連盟

審判部副部長

令和5年 千歳支部 理事長

千歳支部 評議員



鳴海 晃 氏

昭和35年
9月30日生

平成12年 公認審判員二級取得

平成16年 公認審判員一級取得

平成21年 指導員

平成31年 千歳支部 審判部長

令和5年 千歳支部 評議員

千歳支部
事務局長



菊地智彦 氏

昭和40年
11月19日生

平成22年 公認審判員二級取得
平成24年 公認審判員一級取得
平成31年 千歳支部 技術員
令和5年 千歳支部 事務局長

遠軽支部
事務局長



市原裕二 氏

昭和48年
9月29日生

平成30年 公認審判員一級取得
令和5年 遠軽支部 事務局長

中標津支部
技術員



土井貴義 氏

昭和51年
8月7日生

令和3年 公認審判員一級取得
令和5年 中標津支部 技術員

第二十二回 二〇二三年度

北海道・東北ブロック全軟連審判技術指導員研修会 五年振りに北海道で開催

近年の研修会開催状況は、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、リモートでの開催となっていたが、三月四日（土）と五日（日）の二日間、ホテルノースシティ（札幌市中央区）及び農試アリーナ（札幌市西区）を会場として、北海道・東北ブロックの全軟連審判技術指導員研修会が五年振りに北海道が当番として開催されました。

この研修会は、全軟連の審判技術指導員が対象で北海道・東北六県の指導員と役員など含め二十六名が参加しました。

四日（土）は、ホテルノースシティで午後から開講式が行われ、道連の奥山理事長より挨拶の後、今般の派遣講師であります全軟連技術委員会元木三十志委員長より挨拶をいただきました。

開講式終了後、農試アリーナに会場を移し地元社会人チームの協力を得て投球判定や今年から導入されるオーバーアクションなど徹底した実

技指導が行われました。
夕食会は、お酒の入る和やかな夜となり、明日の勉強を一時忘れススキノにレッツゴーとなりました。

最後に、協力いただきました札幌支部並びにチームの皆さんに厚くお礼を申し上げます。
（審判部 部長 塩田昌彦）

五日（日）は、皆さん朝九時前に元気に集合し、本年度野球規則改正、競技者必携改訂を中心に座学が行われ、引き続き元木委員長から講演と講評の後、十二時に閉講いたしました。
出席された東北ブロックの皆さんは、勤勉でとても元気でした。



第22回 2023年度 北海道・東北ブロック 全軟連 審判技術指導員 研修会



実技指導研修



座学研修

支部トピックス

千歳支部

「千歳支部審判講習会開催」

四月二十九日（祝）全日本軟式野球連盟佐々木明技術委員を特別講師に迎え、千歳支部審判講習会を開催し、約三十名が参加しました。当日は好天に恵まれ、菊地技術員による座学のあと、実技会場へ移動しました。実技では、佐々木明技術委員、鳴海審判部長の助言を得ながら基本練習・トラッキング訓練・各塁における基本的な一般事項と、実戦を想定しての説明に、参加者一同納得でした。翌三十日には初めての試みとして、要望の強かった三連盟の少年



団審判員約七十名を対象に行いました。座学会場での改正点の説明に続き、球審の構えやトラッキン

グ訓練を行い、雨の上がった実技会場へ移動しました。ここでも前日同様、基本的な一般事項を学んだあと、学童チームによるキャンプゲームを行いました。参加者の中には二級公認審判員も混じっており、支部での即戦力と期待される人材がいる一方、初心者には貴重な経験となったようです。

（千歳支部リポーター 清水為二）

石狩支部

「支部定時評議会を開催」

去る四月十五日（土）に支部定時評議会を開催し、令和四年度事業報告・決算報告及び令和五年度事業計画・予算等の審議を行いました。

昨年度は、第四十四回東日本北海道大会（二部）にて見事ルーキーズが優勝するなど登録チームの活躍が目立った年でもありました。

また、本年度においては、山田支部長から次代を見据え、役員一同、これまでの経験とチームワークで支部のより一層の発展を目指そうということを確認しました。

本年度は、南北に分かれての初開催が当支部となる「文部科学大臣杯



第十五回全日本春季軟式野球大会 ENEOS トーナメント・北海道少年軟式野球選抜選手権大会名鉄観光トーナメント 南大会」を控え、役員一同今から若い世代の声高らかなプレーを楽しみにしているところです。また、事業の推進にあたっては、競技マナーの指導徹底をはじめ、野球規則の遵守や円滑な大会運営など、一年間の活動を全員で確認し、終了したところです。

（石狩支部リポーター 剣持 司）

「石狩支部審判講習会を開催しました！」

五月三日（祝）に当別町にて当支

部審判講習会を開催しました。今年、JA北いしかり野球部の練習試合の場をお借りし、実践的な講習会として開催いたしました。

はじめに試合前の時間を使い基本的なコール練習とゴー・ストップ・コールを行い、その後の試合では、二イニングずつクルーを決め、塁審については一イニングごとに担当する塁を変えて多くの塁の動きを確認できるよう配置しました。

シーズン初めということで、実践の動きの中でも基本的なコールや動きができていないかの確認と、打球を追う際に「ゴーアウト」「オーケー」という声のみで確認する練習を課題として挙げて取り組みました。

実際の試合の中では、なかなか声が出せない審判員が多く見られました。ここはこれからも継続的に取り組んでいきたいと思っています。また、プレイを



見る角度によつて、手が落球したのが見えにくくなったり、ジャッジの正確性

を欠いたりする場面も見られましたが、アウトのコールの際にしっかりと捕球まで確認する姿勢や、ランダウンプレーを講習どおりの位置と動きでしっかりと判定する姿なども見られ、グラウンドに立っている審判員にも、そしてそれをグラウンド外から見ている審判員にとっても技術向上の良い機会になったと思います。この講習会での反省点を、しっかりとシーズンに活かして欲しいです。

最後に、今回の講習会を開催するにあたり、貴重な練習試合の場を提供いただき、審判員の技術向上にご協力いただいたJ A北いしかり野球部と対戦相手の新冠町役場野球部の皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。

(石狩支部審判技術員 高田憲二)

南空知支部

「二〇二三年シーズン開幕(交流大会)」

北空知支部と南空知支部の交流大会として、二十一回目を数える全空知軟式野球選抜選手権大会が五月二十日(土)、南空知支部が主管と

なり月形町営野球場において開催されました。

本大会につきましては、各支部代表二チームの計四チームによるもので、開催地及び大会運営を隔年で、それぞれが担当し開催しております。

当日は、好天に恵まれ、シーズンはじめとしては、グラウンドコンディションも良く熱戦が繰り広げられました。



第22回全空知軟式野球選抜選手権大会結果

1	JALいわみざわ	南空知	3
2	砂川市役所	北空知	4
3	南幌町役場	南空知	5
4	滝川市役所	北空知	2
			5月20日(土) 9:00
			5月20日(土) 14:00
			5月20日(土) 11:00
			砂川市役所



旭川支部

「旭川支部審判講習会の開催」

四月二十三日(日)、旭川市総合防災センター二階会議室にて、旭川支部審判講習会を開催しました。本来であれば、隣接する旭川ドリームスタジアム(屋外)にて実技講習を行う予定でしたが、天候が悪く気温が低いため、急遽会議室を利用して屋内での講習会となりました。講習は当支部所属で北海道軟式野球連盟技術員の五十嵐靖氏をメイン講師として行いました。屋外とは違い限ら

げます。

(南空知支部 事務局 西脇圭一)

れたスペースでしたが、室内の換気を行いながら、審判の基本コール・ジェスチャー確認、ソフトトスによる球審の構えとトラッキングの練習を行い、最後にコピー用紙を床に敷きベースに見立て、各塁での審判の

留萌支部

「ポーズ・リード・リアクトを再確認」留萌支部審判講習会」

五月六日（土）から苫前町において、留萌支部審判講習会を開催。

前日の雨も朝には上がり好天の中、約二〇名が参加。開催日、一週間前の道北ブロック講習会において、石見正巳技術員が急遽、菅野英樹指導員に講師を依頼するという無茶ぶりにも関わらず、快く出席して頂き、菅野指導員には感謝至極でございます。

苫前町公民館では、石見技術員の司会進行のもと、二〇二三野球規則改正、競技者必携等を説明。いわゆる「大谷ルール」の説明では、万が一、適用に誤りがあった時の対処方法などの質問もあった。

その後、苫前町野球場に会場を移

立ち位置、様々なシチュエーション時に於ける判定位置、ポイント等を伝達し講習会を終えました。屋外で予定していたカリキュラムより大幅な変更となりましたが、参加した審判員は、技術向上を目標に正しい

し実技講習。

ゴールデンウィーク真っ最中であり、チームの招聘が叶わなかったため急遽、選手と審判員の二刀流の若手には、グラブ持参をお願いし、内容をコンパクトにして実施。

基本となる、ジェスチャー、コールを確認し、レフトからライトまでゴー・ストップ・コールを繰り返して練習。

「ゴアアウト・オクケー」では、「ポーズ・リード・リアクト」の重要性を再確認。

なお、「田所・佐藤・折館・萩原」各審判員には、ノッカーとセンターの守備を担ってもらい、大変お疲れ様でした。

「留萌支部 Topix」

①令和四年に東日本一部・北大会を開催した遠別町では、笹川洸志町長のご英断のもと、球場の改修が

ジャッジを下せるよう、終始真剣な眼差しで挑んでおりました。

五月八日から新型コロナウイルスが五類に引き下げられましたが、旭川支部では引き続きコロナウイルス感染症対策に万全を期して、支部一

決定し、まもなく着工の運びになるという嬉しいお知らせ。

②令和六年に高松宮賜杯北大会を予定している天塩町では、留萌支部副理事長の吉田忠さんが、この度の統一地方選挙において、天塩町長に初当選されました。今後審判員としての活動は期待できませんが、始球式での雄姿を期待したいところです。

（留萌支部 理事長 辨開淳美）



丸となり全力で大会運営等に当たって参ります。

（旭川支部リポーター 中原 勉）

網走支部

「網走支部審判講習会を開催！」

四月十六日（日）各連盟審判員四〇名の参加により、令和五年度網走支部審判講習会を開催しました。

呼人コミュニティセンターでの座学では、規則改正や競技者必携の改訂等を学び、その後、実技会場のオホツクドームに移動し、全日本軟式野球連盟田渕技術指導員を始め網走支部審判技術委員会の委員を中心



に四班に分かれ、網走市内一般五チームの協力を得て実技を行いました。

ジェスチャーコールやゴーストアップコールの基本動作のほか、球審の基本動作、各塁での基本動作を行い、それぞれの場面に応じた動きを確認しました。

今年は、六月二十四日(土)から三日間の日程で、高円宮賜杯 第四十三回全日本学童軟式野球大会(マクドナルド・トーナメント)北・北海道大会を網走支部が主管し開催します。

審判員一同心を新たに大会の成功に向け、審判技術の向上に取り組んでいきます。

(網走支部 理事長 堀田国男)

十勝支部

ここ数年、コロナ禍で屋外競技である野球も例外なく、コロナ対策の制約のなか行われてきた各種大会も今年は緩和され、例年通りというが見直す転機になった気がします。

さて、今年の十勝支部は七月に全日本少年の全道大会に加え、来年は「第六十八回高松宮賜杯二部」(全国大会)が帯広市を中心に開催される

ことから、当支部・参加予定チーム、さらに帯広市全体へ歓迎のムードがジワリと出てきました。

そのため我々審判員は、来年を見据えた「北海道ブロック審判講習会」を五月十二日から十四日まで、帯広の森平和球場を主に開催したところでした。

またチームでは、「第六十七回高松宮賜杯二部 十勝支部予選会」が五月二十一日に開催され、圧倒的な



強さで「六花亭マルセイズ」(写真)が優勝し、北・北海道大会へ進出するなど、今後の健闘が期待されます。

これからシーズン折り返しを迎え、大会の開催と全国大会の準備を平行し多忙にはなりますが、十勝支部は盛り上がっています。

全国大会に向け野球の素晴らしさを見せつけたWBCの侍ジャパンに負けない、北海道軟式野球連盟の力を見せましょう。

ご支援ご協力、よろしくお願いいたします。

(十勝支部レポーター 野村 勇)

各部近況報告

審判部

二〇二三年度

全日本軟式野球連盟 北海道ブロック審判講習会

二〇二三年五月十二日(金)から十四日(日)までの三日間、十勝支部の協力により帯広市に於いて、技術研修員、各支部技術員が参加し開催されました。

初日は、とかちプラザで座学、二

日目からは帯広の森平和球場にて実技が開催されました。

○講義内容

十二日(金)午後より、道連奥山理事長、開催地十勝支部鈴木支部長の挨拶の後、派遣講師の全日本軟式野球連盟技術委員近藤拓郎氏による挨拶が行われました。

座学は、近藤講師によるスライドを駆使した講話に引続き筆記試験を行い、試験後その解答を参加した各技術員から求め、技術指導員が正答、技術員は二〇問に悪戦苦闘し、更なる理解と技術向上に繋がりました。

座学終了後、審判員の交流を図ることを目的に懇親会を開催しました。十三日(土)は、午前九時より夕



座学研修



実技研修

今回の北海道ブロック講習会の成果を今後の北海道大会など実践に活かすとともに、次年度、十勝支部で開催される全国大会（高松宮賜杯二部大会）に向けた審判技術の向上にも繋がったと確信しています。

近藤派遣講師と共に指導いただいた道連審判技術指導員の皆さま大変ご苦勞様でした。

また、十勝支部並びに地元チーム、中学生野球部の皆さまには大変お世話になり、厚くお礼申し上げます。

（審判部 部長 塩田昌彦）

育成強化部

二〇二三年度 学童の肘・肩検診の実施から

今年度は、コロナ明けで通常活動ができると思っておりますので、すべての育成部の活動を全うしたいと考えております。まずは「高円宮賜杯 南北北海道大会」において、学童の肘・肩検診を六月二十四日に両会場で同時に実施します。

各チームから四〜六名の投手・捕手予定者に対して医師による検診を実施し、成長期の障害予防を行いたいと考えております。なお、十一月

には「公益財団法人日本スポーツ協会公認コーチ養成講座」と、「公認

お悔やみ

当連盟役員がご逝去されました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

二〇二二年九月十日

参与 湯浅 勝（南空知支部）

編集後記

今年の野球シーズンは、この三月に開催されたワールドベースボールクラシック二〇二三で、侍ジャパンが見事世界一を勝ち取ったことで、日本全国が感動の渦に包まれ、その熱狂が冷めやらないうちにスタートしたように思います。

団塊の世代より年代が少し下の自分は、子供の頃は野球しかなく、外に出て遊ぶとあったら皆が野球。

その時代のプロ野球は、王・長嶋がいて巨人がV九したけれど、オフシーズンにMLBのチームと試合をしても、手も足も出なかった記憶があります。

それが今回、準決勝ではメキシコチームに最終回逆転サヨナラ勝ち、決勝戦では全員がMLBのアメ리카チームを破つての優勝という事で、感動しない訳にはいきません。

しかしながら、野球を取り巻く

学童コーチ養成講座」も予定しております。（育成強化部 副部長 牧 由

二〇二二年十月一日

顧問 中林 直（根室支部）

二〇二二年十一月二十九日

参与 池上 廣幸（稚内支部）

二〇二三年五月七日

参与 大宮 利光（北見支部）

環境を見てみると、昔と違ってスポーツの多様化などの影響で、サッカーなどと選手を取り合う競争が発生する時代になっています。

また、少子化に歯止めがかからないことで、子供の数が減り続け、野球だけではありませんが、小学校・中学校・高校では単独でチームを編成出来なくなってきました。

ましてや、野球用具はお金がかかるという事で、親が敬遠するケースも増えて来ているといえます。

チーム数の減少は、野球の盛り上がりや欠けばかりではなく、大げさかもしれませんが、野球というスポーツの存続にかかわる問題になってくるかもしれません。

そろそろ各支部の皆さんも、小さな子供のうちから野球に慣れ親しみ、無理なく野球を続けていつてもらえる仕組みづくりを、考える時期に来ているのではないかと思っています。

（総務部 理事 新林裕幸）